

# 会 議 録

作成日 令和4年3月17日

日	令和4年3月16日(水)	時間	13:30~15:00	場所	市民会館3階会議室
件名	令和3年度 第2回糸魚川市地域自立支援協議会				
出席者	【出席者】 委員：斉藤委員、牛木委員、大谷委員、岡尾委員、横澤委員、吉井委員、 芋川委員、北村委員、猪又委員、岡崎委員、山本委員 事務局：地域生活支援センターこまくさ 内藤管理者、磯貝相談員 福祉事務所 嶋田所長、山岸係長、横澤主査 【欠席者】大久保委員、田中委員、富井委員、安井委員				
	傍聴者定員	一人	傍聴者数	0人	

## 会議要旨

### 1. 開会

要綱の規定により、委員の半数の出席で成立するとあるため、本会は成立します。

### 2. 福祉事務所長あいさつ

- ・3年度は第6期ささえあいプラン初年度ということで、障害福祉や保健・医療と関係する皆様と事業を進めてきた。協議会では、本プランの進行状況を確認いただくとともに、4年度に向けたご意見を伺いたい。
- ・様々な分野の皆さまから、気兼ねなくご意見を交換いただき、話し合った内容をそれぞれの団体にもお返しいただくことで、市民一体となって、本プランを進めていきたい。
- ・障害者の制度等も年々新しくなっていくが、今後は、より良い支援ができるよう、地域で一緒につながりながら、ともに助け合い、安心して笑顔で暮らせる糸魚川になるよう、皆さまからご協力いただきたい。

### 3. 会長あいさつ

新型コロナウイルスの影響で、各種行事が中止されてきたが、感染対策をとりながら、旅行などの会員同士の親睦を深める活動を進めていきたいと考えている。各種団体の皆様からお集まりいただき、貴重なご意見をお聞かせいただきたい。

### 4. 報告・協議事項

#### (1) 各部会の活動状況について(資料No.1)

配付の資料をもとに、各部会の担当事務局より説明。

(質問なし)

#### (2) 令和3年度ささえあいプランの取組について(資料No.2)

配付の資料をもとに、担当事務局より説明。

(質問なし)

### (3) 令和4年度新規取組について

- ・こども療育高速料金助成事業

市外の医療・療育機関等に通院・通所する児童の保護者への負担軽減策として、通院・通所の際の高速料金を一部助成する。

- ・重度身体障害児施設入浴サービス

訪問入浴に加えて、重度の肢体不自由児を対象に、市内施設での入浴サービスを提供。ただし、受入先の施設での研修などを実施したのちに開始する。

### 4. その他（意見交換・情報交換）

(事務局) これまでの内容に質問・意見、各委員の所属団体の取組状況について報告いただきたい。

(委員) 身体障害者会も年々会員が少なくなっている。上越、妙高、糸魚川の三市での交流など、徐々に活動を増やしている。パラリリンピック協議でもあるボッチャも活動に取り入れ始め、アクアホールへの床ライン引きを市へ要望し、1面のみであるが、施工された。

(委員) 現在会員数は22～23名。役員は全員80歳以上であり、活動の幅が狭まりつつある。それだけ福祉制度が充実してきた証か。しかし、いまだ障害者や高齢者がいることが想定された社会となっていないのは残念だ。

(委員) 3月に役員会を開催し、久しぶりに集まることができた。1・2月には、施設利用者を中心に、コロナ感染者、濃厚接触者となった会員が続出し、しばらく施設に通えない状況が続いた。障害者本人は、知的障害があり、「濃厚接触者だから外出できない、施設に通えない」ということすら理解できないため、親は対応にかなり苦慮をした。本人も理解ができず、また外出もできないため、ストレスがたまったことと思う。

(委員) ・就労支援部会が年1回の開催のみだったが、意見交換できる数少ない機会であるため、4年度は回数を増やしてほしい。

- ・好望こまくさは、就労支援施設であるが、高齢の独居者の利用もおり、災害時だけでなく、民生委員の力も借りながら、地域での見守り支援が必要であると考えている。就労支援施設だけでは、本人の生活部分のフォローに限界がる。

- ・バスのダイヤ改正によって、午前みの作業の日に帰りのバスがないといった場合もある。以前のようなダイヤに戻してもらいたい。

(委員) ・エスポアールで職員にコロナ陽性者が出たが、あまり広がりを見せずに安堵している。当面、面会・外出制限を行う。

- ・入所者の高齢化が進み、介護保険への移行を検討しているが、なかなか進まないのが現状。

- ・重度心身障害児の施設入浴サービスに協力したいが、介護士の対応、研修などを経て、検討していきたい。

- ・令和3年度、拠点对応として緊急ショート3件実施。感想としては、拠点登録ののちに、しばらく日が開いた場合に、本人の状態が変化する場合も考えられるので、本人状態の情報共有をしたほうがよい。

(委員) ・ワークセンターでもコロナ陽性者が2名出たため、大事をとって数日間臨時休業とした。

- ・令和3年度は一般就労が2名、離職者なし。令和4年度は、一般就労予定が3名。

- ・令和3年度は、コロナ禍に関わらず、前年比よりも工賃が多く支払うことができた。六次化による生産～収穫～加工～販売を行っており、その部分の収入が大きい。(炊き込みご飯、カレーなど)

- ・農福連携の取組としては、西海地区の地域づくりプランにのっとり、農業の大規模化に施設としても参画していく予定。地区の園芸班として、地区の会議にも参加している。

・触法障害者の対応を就労支援部会で検討していく必要がある。当施設でも数人いるが、福祉だけでは支援しきれない部分がある。司法、行政、企業（就労の場合）などの関連分野との体制づくりをしなければ、彼らの居場所はなくなる。

(委員) ・管内の令和3年度障害者の就労状況（33件）身体10件、知的4件、精神19件  
令和2年度、元年度と同ベースで推移。

・障害者の登録者 70件 身体24件、知的12件、精神33件  
身体、知的は減少傾向、精神が増加傾向にある。

(委員) ・白嶺高校では、就労支援に力を入れているが、卒後3年間もフォローアップを継続している。勤務先から、3年を経過した後も、生徒の過去の状況などの問い合わせが来ることもあり、担当教諭がいれば、対応している。

・登校には進路指導主事があり、職場実習先の新規開拓に取り組んでいる。本日も青海地区の実習先を開拓したところ。実習先が就労先になるのが一番ありがたいが、なかなかうまくはいかない。今後も、市内の企業への働きかけを続ける。

(委員) ・農業などをはじめ、担い手不足が懸念される分野において、障害者が担い手の一員として、務めを果たす世の中が来るのでは、と期待している。

・ぐりーんばすけっとは、令和4年度にドライバー4名で運営。

・現在、約100名が登録し、年間延べ約1,000件の依頼を受けている。現在の人員では、こなす件数に限りもあり、次の世代や担い手につなぐ時期が来ている。今後総会の場で話をしていく。

(委員) ・地活こまくさでは、コロナ感染に配慮しつつ、安価でお腹が満たせるご飯の日を月1回開催している。

・センターこまくさでは、相談支援員を4月から1名増員する。市の課題として、長年セルフプランでサービスを利用している児童がいるが、この解消に努めていきたい。合わせて、成人の相談・支援も含めて、市の課題解決や施策に貢献していきたいと考えている。

#### ◇質疑応答

(委員) 市内企業の抱える問題点とは何か？

(委員) 高齢化による若年層の人材不足が、市の長年の課題。Uターンによる施策などを早急に進めていかなければ、担い手不足は今後も続く。

(委員) コロナの市内企業への影響度は？

(委員) 令和3年度の宴キャンペーンで、コロナ禍で影響を受けていた飲食業が一時息を吹き返したものの、市内での感染者が相次いだため、急降下している。飲食、宿泊、観光業は依然厳しい状況で、この春に大手の飲食事業者が1者倒産した。コロナ禍が続いており、そろそろ体力が続かずに倒産する事業者も増えてくる可能性が高い。また、世界的な半導体不足や原料高騰で物資が入ってこずに建設業、製造業にも影響が出ている。

(事務局) 次年度以降も、市の障害福祉へのご協力をお願いします。

以上